

【生薬名】当帰 *ANGELICAE RADIX*

【起源植物】トウキ *Angerica acutiloba*

【科名】セリ科 *Umbelliferae*



【種類】当帰には日本産の大和当帰(別名大深当帰*A.actiloba*)と北海当帰(*A.acutiloba sugiyama*)と中国産の唐当帰(*A.sinensis*)がある

大和当帰は品質も最良であるが値段も高い、一貫堂ではこれを使用

【別名】當歸・一名乾歸(神農本草経)

【薬用部分】根

【主成分】精油(リグステリ、サフロール)、糖質、VE

【薬性】気味は甘辛温、帰経は心肝脾に属す

【効能】●補血・行血・潤腸・調経

●鎮痛、鎮静、浄血、通経、産前産後、血の道、冷え性、貧血などに、5gを煎服、薬酒を20ml飲んでもよい

●『当帰酒』：当帰200g、グラニュー糖200g、ホワイトリカー1.8ℓ、1月熟成させる

●婦人疾患には欠かすことの出来ない生薬

●当帰、地黄各2~4gの煎じ液を風呂に入れて入浴するとアトピー性皮膚病、乾燥肌の痒みに効果があり臨床応用されている

●種子ですぐに繁殖する、薬用にするには花を咲かせない

【出典】●治欬逆上気、温瘧寒熱洗洗在皮膚中、婦人漏下絶子、諸惡瘡瘍、金創、煮(神農本草経中品)

●血を生じ、心を補い、虚を扶け、損を益し、瘀を遂い、新を生ず。(薬性)

【備考】●根頭部を帰頭、主根部を帰身、支根を帰尾(当帰鬚)というが、現在ではに使用している

●古人は「帰頭は補血し、帰身は養血し、帰尾は破血し、全用すれば咯血す」「帰頭は頭を補血し、帰身は身を補い、帰尾は四肢を補う」といってはこれにこだわる必要はない

●血液循環の改善・解表には全当帰を、血虚の治療・月経の調整には帰身・捻挫の腫脹や疼痛(瘀血)・関節の運動障害には帰尾を使用すると良